周辺のまちなみに配慮する

2-1. まちなみ・まちかど景観をつくる

指針の解説

- ■建築物や緑が連なって、まちなみを形成します。そして、まちなみとまちなみが交差 する場所には、まちかどが形成されます。
- ■建築物や緑を上手に配置、デザインし、人々の心に残るようなまちなみ・まちかど景観をつくっていくことが求められます。

■現 状



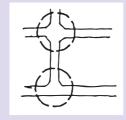
落ち着いたたたずまい のある集落が市域全般 に点在する。



低層の建築物と中高層 の建築物が混在してい る場所がある。



成熟した住環境をもつ 住宅地が丘陵地などに 形成されている。



交差点やT字路が多く あり、心地の良い「ま ちかど」づくりが求め られている。

景観形成の技法

■建築物の大きさを調和させる

大規模な建築物では、緑や建築物の配置、建築物の分節化、スカイラインの調和に配慮する。

■建築物の形状・色あい・素材を調和させる

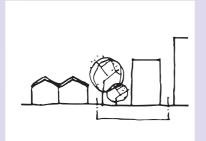
建築物の形状、色あい、素材などについては、周辺の建築物と調和し、良好なまちな みを形成するようデザインする。

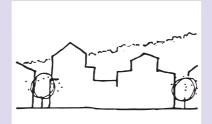
■まちかど景観をつくる

角地などでは、道路側に余裕をもたせ、人々の出会いが生まれるようなまちかどをつ くる。

■建築物の大きさを調和させる

スケールの小さな建築物の隣接 地側に低層棟や緑を配置し、圧 迫感を和らげる。 大規模な建築物は周辺や背景と なじむよう分節化する。 隣接地とのスカイラインを調和 させる。

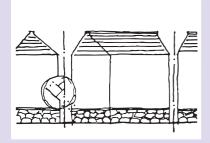




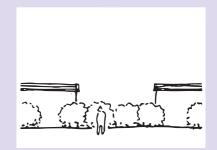


■建築物の形状・色あい・素材を調和させる

住宅地では、屋根の形態・素材、 外壁の色彩・素材を調和させる。 商業・業務地では、にぎわいの ある通りづくりに配慮し、広告 物や外壁などの色彩・素材を工 夫する。 工業地では、敷際の緑化や歩行 者の安全性の確保に配慮する。

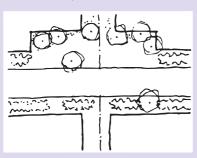




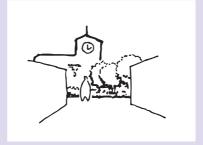


■まちかど景観をつくる

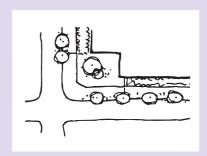
2 つの敷地から生み出された空 地がペアになり、新しいまちか どをつくる。



アイストップとなる道のつきあ たりでは、まちかど景観に配慮 する。



角地では壁面の後退等により、 うるおいのあるまちかど景観を つくる。

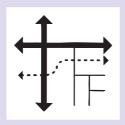


2-2. 街路景観を整える

指針の解説

- ■道路には幹線道路、生活道路、旧街道など多くの種類があるように、街路景観もそれ らに応じて様々な表情をもっており、まちを印象付けているものの一つです。
- ■まちの特性に応じた表情豊かな街路景観を整え、演出していくことが求められます。

■現 状



旧街道、散歩道、路地、 幹線道路など、さまざ まな道がある。



国道 1 号などの幹線道路を通る人は、街路景観を見て枚方のイメージをつくることになる。

・鏡伝道 ・くずはアペニュー ・とうかえでの道 ・松美ヶ丘桜通り ・ ふれあい通りをはじめ として 22 の愛称道路 が設定されている。



歩きにくい道を改善する工夫が求められる。

景観形成の技法

■まちなみにつながりをもたせる

建築物のデザインや色彩、低層部の利用形態などに、通りとしての連続性をもたせる。

■生活道路をいきいきさせる

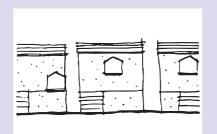
敷地に接する道の雰囲気に応じて、塀や敷際をデザインする。

■幹線道路にうるおいを与える

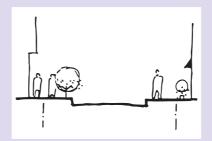
幹線道路の沿道で緑化や広告物の修景を進め、枚方のイメージをより良いものにする。

■まちなみにつながりをもたせる

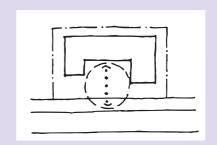
建築物の形態・デザインや外壁 の色彩・素材について通りとし てのつながりに配慮する。



壁面後退、ファサードのデザインや低層部の利用形態により、 通りの豊かな表情を演出する。



歩道と一体となった広場などを つくる。



■生活道路をいきいきさせる

歴史的なまちなみなどでは風あいのある塀や見越しの樹木を整える。

住宅地では生垣や石垣などで敷 際を整える。 密度の高い住宅地では窓の鉢植えなどを充実する。

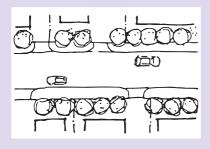


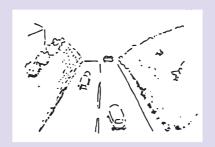


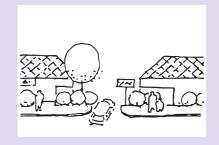


■幹線道路にうるおいを与える

幹線道路沿いの敷際を緑化し、 連続させる。 法面の緑化や斜面地の緑の育成 により量感のある緑を確保する。 幹線道路の沿道では、建築物や 広告物の大きさ・色彩を整える。







2-3. 地域の歴史を尊重する

指針の解説

■ 枚方には宿場町、集落や史跡など歴史的な景観が多く残されおり、豊かな自然とともに枚方らしさを最も表現しています。このような歴史的な景観は、私たちの生活にうるおいとやすらぎを生み、地域への愛着を育むものです。これらを市民共有の財産として守り育て、将来に受け継いでいくことが求められます。

■現 状



枚方宿地区では京街道 沿いに、町家をはじめ 宿場町のたたずまいが 残されている。



社寺をはじめとして多 くの史跡・文化財があ る。



集落では古い家なみと 庭の樹木、風あいある 門や塀が続いている。



大和棟やかやぶきの民 家が残された里山があ る。

景観形成の技法

■町家や民家などの歴史的な外観・意匠を継承する

まちの歴史を物語り、魅力をつくりだしている町家や民家などの外観・意匠を継承する。

■歴史的なまちなみに配慮する

歴史的なまちなみに配慮し、建築物や外構の形態、意匠を工夫する。

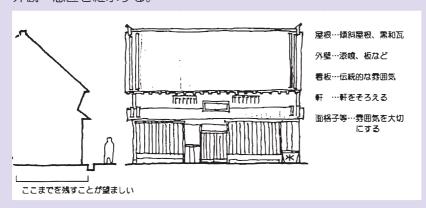
■集落や里山のたたずまいを継承する

集落や里山のもつ豊かな景観を残すようにする。

■町家や民家などの歴史的な外観・意匠を継承する

町家の旧街道に面する部分を残す。

旧街道に面した敷地で、建築物の新築・増改築を行う際は、町家の 外観・意匠を継承する。

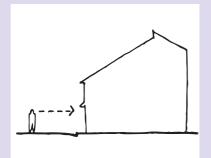


民家の伝統的な外観・意匠を残 し伝える。

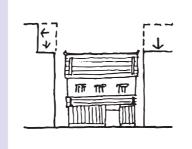


■歴史的なまちなみに配慮する

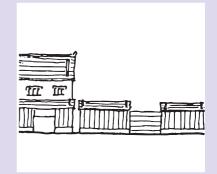
新築する場合は道に面する部分 の歴史的意匠の継承に努める。



建築物のスケールについて歴史的まちなみに配慮する。



駐車場などの空地は伝統的な雰囲気の塀などで覆う。

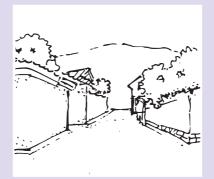


■集落や里山のたたずまいを継承する

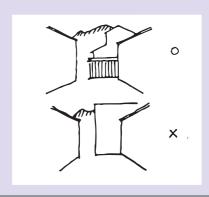
集落や里山では、建築物は伝統 的な素材、色あいを用い、傾斜 屋根を基本とする。



門、塀、樹木などのたたずまい を継承する。



集落の通りの向こうに見える風 景を残すようにする。



2-4. 地域の自然を大切にする

指針の解説

■ 枚方には、生駒の山なみ、丘陵地の緑、河川やため池など多様な自然があります。こうした自然は、私たちの生活にやすらぎを与えてくれます。自然を大切にし活かすことによって、うるおいのある景観をつくることが求められます。

■現 状



丘陵の縁辺部の斜面地 には豊かな緑が残され ている。



枚方は丘陵、山地など があり、起伏に富んで いる。



水系は草花や樹木、生物の生息空間などの連なりでもある。



船橋川、穂谷川、天野川などは天井川となっている。

景観形成の技法

■緑のつらなりに配慮する

まちなみの背景としての緑の連なり、生物の生息場所としての自然の連なりに配慮する。

■水辺の魅力を高める

水辺の敷地では、河川やため池の自然を取り込み、水辺と一体となった景観を形成する。

■地形を活かす

地形は豊かな表情を生み出す資源であり、それを活かした建築物の配置、デザインを 行う。

■緑のつらなりに配慮する

まちなみの背景となる山なみや斜面地の緑の連続性を確保する。

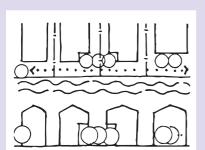
市街地の緑は生物の生息場所を結びつけることを念頭におく。



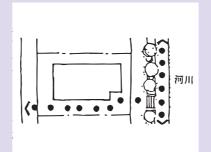


■水辺の魅力を高める

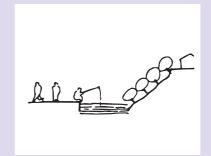
川にも表を向けた計画をする。



水辺へのアクセス通路などを確保し、水辺の楽しさを多くの人が味わえるようにする。

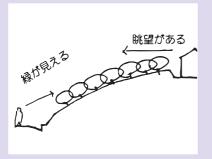


河川やため池の背景となる緑を保全する。

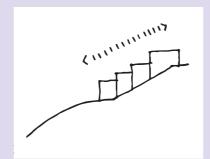


■地形を活かす

丘陵地の緑を活かす。



地形の高低差と建築物のボリュ ームの関係に配慮し、景観にリ ズム感を与える。



大きな人工的な擁壁をつくらない。小さく区分して緑化等により修景する。

